

楓園

ISSUE 98
2024 6/1

FÛEN [フウエン]
Toyo Eiwa Jogakuin
Public Relations Report

学院創立140周年特集

東洋英和女学院
東洋英和楓の会

主に導かれてきた歩み、未来への道筋



主に導かれてきた歩み、未来への道筋



Being Active in God's World

～神さまに委ねられた世界で、人々のために自ら考え行動する～

副院長 高橋 貞二郎

今年、東洋英和女学院は創立140周年を迎えます。これを機会に、学院の目的をさらに推進するため各部代表者等によりビジョン策定会を組織し、「敬神奉仕」を踏まえたうえで、約4か月の時間をかけて10年後の学院の未来を想像してビジョンを策定しました。学院と各部のビジョンについて、学院の役職者の言葉で紹介をさせていただきます。



学院が大切に受け継いできたこと

創立以来、東洋英和女学院が大切に受け継いできたことがいくつかあります。その中でも「敬神奉仕」(1928年制定)の精神を身に着けて実践できる人を育み、世へ送り出すというミッションは現在も受け継がれ、これからも変わることはありません。

ビジョンを大切にした宣教師たち

ところで未来像のことをビジョンと言います。ビジョンは、未来に実現したい姿、すなわち未来に示されたゴールと言っても良いかもしれません。

学院にとってゴールが明確であれば、そこを目指して、皆で力を合わせて進むことができます。ですが、ゴール

Contents

P.01 [学院創立 140 周年特集]
主に導かれてきた歩み、未来への道筋

P.15 *Cartmell's Prayer*
[宗教教育委員会]

P.17 教員紹介

P.19 学院人事

P.21 東洋英和楓の会

「楓園」について皆様のお声を聞かせてください。



140年のあゆみ

1884～1893
東洋英和女学校開校

カナダから遣わされた宣教師ミス・カートメルは、1884(明治17)年、麻布区東鳥居坂町14番地で東洋英和女学校を設立。人格や自由を軽視されていた女性たちのためにキリストの福音に基づく女子教育を開始。1886年は予科3年・本科5年、その2年後には幼稚科が設置され、後に中高部や小学部となっていく。1888年には、校内にクリスチャン生徒によるボランティアな共励団体である王女会が創立された。



初代校長M.J. カートメル

がなければ、その時々やその場に応じての変化はあるかもしれませんが、進歩は期待できません。

そのことを知っているかつての宣教師の先生方は、ビジョンを大切にしてきました。例えば、ミス・ハミルトンは創立50周年を迎えた時に、東洋英和が「高い教育の理想」と「キリスト教の世界市民としての真の精神」を広めていく学校になるというビジョンを掲げ、次の半世紀への道を示したのです。

10年後のビジョンと、そこに込められた思い

そこで東洋英和史上初の試みですが、幼稚園から大学、法人まで各部代表者が集まってビジョン策定会(2023年9月～12月)を行い、学院の目的をさらに推進するために10年後(創立150周年)の学院を想像してビジョンを考えました。そして、まとめたのが冒頭に掲げた言葉です。ここには、学院標語である「敬神奉仕」を第一に掲げ、これからの学院の歩みを通して「神から委ねられた世界のために学び、考え、人々のために自ら主体的に行動し、奉仕することができる人を育てていく」という、150周年に向けて成し遂げたい大きい目標が、改めてVisionという形で明文化されています。

尚、このビジョンにはさまざまな思いが込められています。策定会で出された一部を紹介すると次の通りです。

- 一人ひとりが神から愛され、この世界で必要とされているという自己肯定感を高める。
- 最高の教育、豊かな経験、深い学びを提供する。
- 本物に触れる体験、知的好奇心をくすぐる学びを大切にす。

- 「当たり前」と見過ごされてきた物事・現象に疑問を持ち、慧眼を養う。

- 共に学び、高め合う中で互いの賜物に気づく。

- 視野を広げて、世界に目を向ける。

学院の姿や在りようを共に考えていく中で、「英和生とは、自ら考え、自ら行動することができる人」「人々のために奉仕することができる人」というイメージが共有され、全員の意識が実は同じ方向に向かっていているということに気づき、冒頭のVisionの言葉に集約されていきました。

未来への挑戦

私たちを取り巻く環境は、これまでないほどのスピードで変化しています。その変化に対応しつつ、「敬神奉仕」を第一に、学院全体で力を合わせてビジョン実現のために新たな挑戦をしていきます。どうぞご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

【ビジョン策定会メンバー】

副院長 高橋 貞二郎	小学部長 吉田 太郎
大学学長 星野 三喜夫	東洋英和幼稚園園長 堤 加壽美
大学人間科学部長 前川 美行	大学付属かえで幼稚園園長 大瀧 知子
大学国際社会学部長 平体 由美	法人事務局総務企画部長 吉田 豊
高等部長 楠山 眞里子	法人事務局史料室 松本 郁子
中学部長 石澤 友康	学院広報アドバイザー 早川 優子

※役職名は2023年度のものです。

心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、
あなたの神である主を愛しなさい。

(マルコによる福音書 第12章 30節)

隣人を自分のように愛しなさい。

(マルコによる福音書 第12章 31節)

聖書の中で一番大切な教えは何なの?と問われたらこのみ言葉を伝えればいいのか、と小学部生たちに言っていました。イエス様が最も大切な教えとおっしゃっているのですから間違いありません!また東洋英和も学院標語「敬神奉仕」の典拠としてこのみ言葉を大切にしています。間違いありません!これを聞き続け、これを携えたあまたの卒業生を世に送り出してきた東洋英和への、140年にわたる神様のお導きに心から感謝をささげます。

前小学部長 山本 香織

聖書の言葉



140年のあゆみ

1894～1903

ミス・ブラックモアの決断

1899年に文部省訓令12号(宗教教育を禁止)が公布されたが、当時の校長ミス・ブラックモアは、キリスト教教育を堅持し、各種学校となることを決断。ラージ事件後、生徒数が減少していたが、一貫してキリスト教教育を続け校舎新築を推し進めたため生徒数はV字回復へ。



第3、7、10、14代
校長 I.S. ブラックモア



東鳥居坂町8番地に新校舎落成
1900(明治33)年



試練の中で変えてはいけなかったものが見えた

災害による2度の校舎の倒壊、戦時下での抑圧された学校生活、
厳しい試練が続く140年の歴史の中で英和生の心を豊かにしてきたのは建学の精神でした。

東洋英和が歩んできた140年の歴史の中には、数々の試練がありました。順風満帆の時には見えてなくても、試練の時には浮き彫りになってくるものがあります。2つの例から東洋英和女学院が何を大切にしてきたかを考えてみたいと思います。

貫かれたキリスト教教育

1884年、カナダからの宣教師ミス・カートメルによって、「キリストの福音」に基づく女子教育を行う東洋英和が設立されました。最初は2人だった生徒は徐々に増えていきましたが、1899年には大きな試練の年を迎えました。建築中の新校舎が台風によって2度も倒壊。さらにキリスト教学校としての東洋英和の存続が危惧された文部省訓令12号の公布。しかし、この試練の嵐の中で物事の本質が見えてきました。学校での宗教教育を禁止する法令である訓令12号により、キリスト教教育を続けるのならば文部省に認可された学校をあきらめて各種学校にならなくてはならない、さらに勉学を深めたくても上級学校には進めないという、まさに教育とは何なのかを問うような事態となった。当時の校長ミス・ブラックモアの決断は、学校設立時の方針であるキリスト教教育を貫き通すというものでした。東洋英和が守るべき方針がはっきりとしたうえに、上級学校に行け

ないのであれば自前でそれを補おうと、より深い学びができる高等科を充実させ、建学の精神を貫いた教育機関として東洋英和を整えていきました。

戦時下でも大切にされた隣人愛

そこから35年経った1934年、創立50周年を盛大に祝った後、東洋英和は再び大きな試練にぶつかりました。戦争の気配が濃くなり、1941年に校名は「東洋永和女学校」と変更になりました。戦時中、校内には沖電気の作業所ができ、もんぺと防空頭巾を制服とした生徒たちは厳しい自粛モードの中、作業所での労働に従事し、ごくわずかの授業を受けていました。社会全体が困難な状況下であり十分な食料もなかったにもかかわらず、生徒たちは心を満腹にするすべを知っていました。毎朝行っていた礼拝は表立ってできなかったため、工場の監視をしていた軍人さんに許可を得て讃美歌を歌い、休み時間に鳥居坂教会に行き礼拝をしていました。毎日命の危険にさらされている日々を送りつつも、彼女たちの心の平安は保たれていました。試練の時だからこそ神様を信じ、隣人を愛することの大切さが見えたのでしょうか。

東洋英和はこのように絶対に変えてはならないキリスト教という柱は守りつつも、しなやかに新しいものを取り入れて140年の歴史を刻んできました。

140年のあゆみ

1904～1913

大学の保育子ども学科のルーツ

王女会が恵まれない子どもたちのための孤女院を麻布本村町に開設。のちに永坂に移設し永坂孤女院となる。長野県上田に梅花幼稚園を実習園とする上田保姆伝習所開設。のち東京に移り東洋英和女学校附属保姆養成所を経て、戦後の短期大学保育科、現在の大学の保育子ども学科につながっていく。



上田の宣教師館と梅花幼稚園



永坂孤女院
1908(明治41)年

中高部長 石澤 友康



しなやかに未来を育てる

加速的に変化するイノベーションの時代に求められるスキルを身に付けるとともに、決して変わらない建学の精神を持って、しなやかに未来を生きる子どもを育てます。

東洋英和は140年の長い歴史を繋いできました。はたして来るべき150周年さらには200周年を目指して学院はどのような姿であるべきなのでしょう。

試練の中でも変わらぬ東洋英和の根

私は幼いころ父とよくタケノコ採りにいきました。春になると山の竹林に入り、ニョキッと生えたタケノコをみつけては掘り出し、切って鍋物にしました。おいしい思い出です。今でも強く記憶している光景、それは竹の姿です。空に向けまっすぐに高く伸びた竹の群生。笹の合間から木漏れ日が差し込むその光景は圧巻でした。父から、竹は根がしっかり張っていて、所々に節があるから強いのだ。強い風でもしなやかに受け流し折れずに伸びるのだと教わりました。竹ってすごい、と幼いながら感じていました。今でも竹林を見るのが大好きです。大人になり、人の生き方もこのようなことが大切ではないかと思っています。

しっかりした根としなやかさ。

この学院の未来の姿にも私は竹の姿を重ねます。

学院が歩んだ歴史は、試練の中でも決して変えなかった理念“根”があり、多くの先達の業が伝統“節”をつくり、しなやかに歩んできました。強風でも折れることなく上へ上へと伸び続けてきた竹の姿です。

変化する時代に対応するしなやかさ

現在社会は知識や情報が簡単にいつでも取り出せ、人間の頭脳の代替ができるほどの革新的なデジタル社会にあります。何が真実かを見極めるのも困難です。さまざまな事柄が加速度的に変化するイノベーションの時代です。その速度に私たちは目を奪われます。そして、戦争紛争・気候変動・自然災害・少子高齢化などの未解決問題が山積みです。人間のあり方に大きな問いが出されています。このような世界に子どもたちを送り出すのが私たち学校の任務です。当然ながら学校教育にも変化が求められます。デジタルスキルや論理的思考は必須であり、ポードレスの国際社会で英語力も必須でしょう。国や社会に揺さぶられているのが現代の日本の教育です。伝統と歴史にしがみつき変化を嫌った学校は退場させられます。

一方で私たちは私立学校であり建学の精神があります。生き残りのため、それすら明け渡す私学が出現する昨今、東洋英和にはぶれない建学の精神「敬神奉仕」が深い“根”として張り続けてきました。そのことがいかに幸いなことか。決して変わらないものを持つことがいかに強いことか。それにより時代に即して教育内容も大胆に変えることができます。時代の風にもしなやかに対応し、さらに上へ上へと伸び続ける竹のようにあります。

子どもたちは“未来”です。しなやかに未来を育てる学校であり続けます。

140年のあゆみ

1914~1923

東洋英和幼稚園開設

東洋英和女学校創立30周年の年に、東洋英和女学校附属幼稚園開設。初代園長はミス・ブラックモア。1917年に体操競技会(運動会)を初めて開催。



開園当時の幼稚園
1914(大正3)年



当時の体操の授業風景

中高部 座談会

全ては「敬神奉仕」につながる 東洋英和の歴史を支える生徒会

生徒たちが力を合わせ、生き生きと活動する生徒会。生徒会長・副会長を経験した4名が、活動で得たものや生徒会の役割について語り合いました。

■ 生徒会活動の土台となる「敬神奉仕」

生徒一人ひとりが生徒会員であり、皆の意見を取り入れながら充実した学校生活の実現を目指す東洋英和女学院中学部・高等部生徒会。長年にわたり「敬神奉仕」を柱に生徒会活動が行われています。

「私は、『奉仕』を公約に掲げて生徒会長に立候補しました。上に立つ者だからこそ周りの人に仕えるべきであるという聖書の教えを胸に、迷ったときは『イエス様ならどうするだろう?』と考えました」(瓜生さん)

「私が生徒会長だったときのプロジェクトに、2つ上の代の先輩(生徒会)から続く体育着の改定があります。乾きやすい素材への変更やファスナーを閉めるとTOYO EIWAの文字が現れるデザインなど、全校生にアンケートを取りつつ細部を決めましたが、原動力になったのは『英和生のためになることをしたい』という奉仕の

気持ちでした」(谷本さん)

生徒会執行部である評議会は、多様なメンバーと協働する力、周囲の協力を得るための交渉力、

韓国在住の瓜生恭子さんは、オンラインでの参加となった。



生徒たちがやりたいことを自由に、伸び伸びとできる。生徒の自主性を重んじる環境も、東洋英和の生徒会の良さだと4人は語る。

チャレンジ精神、物事を俯瞰する力など、多くの学びを与えてくれる場でもあります。

「私が生徒会長だったときの試みに、生徒会の公式インスタグラム(SNS)の開設があります。東洋英和や生徒会活動について、学内外の人に広く知ってもらいたいと思いました。また、生徒会を身近に感じてほしかったので、生徒会室ではなく、多くの生徒の目に触れる場所で公開評議会(定例会議)を行いました。失敗もありますが、学校は実験室だと思って何事もまず挑戦してみる大切だと学びました」(秋山さん)

「今はインターネットでアンケートが取れますし、技術の進化によって可能になったこともあります。ただ時代に関係なく、多様な個性の生徒をいかに説得し、協力を得るかは悩みどころですよ」(町島先生)

■ 新しい試みの場だった楓祭

4人が印象に残る活動として挙げたのが楓祭。

町島先生のときは、会計年度とも一致せず、活動の中心が高等部3年の5月になるのを解決しようと、開催を5月から2月、さらに10月へと移行する試みが行われました。

「クラブより有志参加が多かった楓祭を、2年上の先輩から、販売は本部直轄にするなど、生徒会組織に基

140年のあゆみ

1924~1933

スクールモットーは「敬神奉仕」

ハミルトン校長時代に、校章および制服、校旗、標語(敬神奉仕)を制定。スクールカラーをガーネットとゴールドとする。校勢拡大のために東鳥居坂町2番地に土地を購入し、ヴォーリズ設計により幼稚園/伝道館、宣教師館、寄宿舎が建てられ、翌年には新校舎も落成。



第15、17代校長
F.G. ハミルトン



標語「敬神奉仕」を制定



現行の制服制定
1929(昭和4)年



宣教師館完成
1932(昭和9)年

新校舎(ヴォーリズ校舎)完成
手前はガス燈
1933(昭和8)年



参加者 PROFILE

▶町島 由美子先生(旧姓:中島)

中高部の国語科教諭。幼稚園より東洋英和で学び、1977年高等部卒業。中学部1年より楓祭実行委員を務め、1975年度生徒会副会長。



▶瓜生 恭子さん

幼稚園より東洋英和で学び、1996年高等部卒業。中央大学法学部卒業。舞台楽曲作曲・演奏家、ミュージシャンとして活動。1994年度生徒会長。



▶谷本 泉季さん

小学部より東洋英和で学び、2020年高等部卒業。2024年3月、慶應義塾大学法学部卒業。中学部1年より生徒会委員を務め、2018年度生徒会長。



▶秋山 素子さん

小学部より東洋英和で学び、2024年3月高等部卒業。東京大学在学中。2022年度生徒会長。



づいた形に変更しました。一般公開で大勢のお客様がいらしたことから、『スリッパの数が足りないけどどうする?』『受け入れ人数に限りがあるからチケット制にしよう』といった試行錯誤がありました(町島先生)

瓜生さんの代は、30年に渡り交流が続いている「すい一つばたけ」のクッキー販売をスタート。谷本さんは第50回の記念の年にあたり、中庭にステージを設けたり卒業生のメッセージを動画で流したり特別イベントを実施。秋山さんの代はコロナ禍が明けつつあるタイミングであったことから、麻布十番商店街の3つの店舗とコラボした商品を販売し、外部と積極的に交流しました。

「楓祭は、新しい挑戦をするきっかけの場だったと思います。障がいを持つ方々が働く「すい一つばたけ」のクッキー販売は、『少しでも皆さんの力になりたい』という思いから始まった企画ですが、2日間の開催期間中に約1,500個を売ることができ、生徒会に大きな喜びと自信をもたらしました(瓜生さん)

「すい一つばたけのクッキーは大好きでよく買っていますが、学校主導の活動だと思っていました」「発起人である瓜生さんとお話できるなんて光栄です」と、谷本さんと秋山さんは思わず笑顔に。

東洋英和の生徒会が果たすべき役割とは

校内のことだけでなく、校外の出来事にも広く関心を持ち、奉仕、社会貢献するのも東洋英和女学院の生徒会の特徴。国内外で痛ましい事件・事故・災害が起こったときは、生徒会主導で募金活動を行っています。

「英和生には、互いを思いやり、助け合う優しさがあります。今生徒会役員の方も、これからされる方も、世界で起きていることに目を配り、自分たちにできる奉仕を実行して欲しいです(瓜生さん)

「東洋英和女学院は、中高一貫で生徒数がそれほど多くなく、生徒同士の距離も近いので、間近に上級生の姿を見て学ぶことも多くあります。そのようにして生徒会の伝統が作られてきたと思います。今回の座談会で、多くの先輩方、先生方のご尽力の上に成り立ってきたことを再確認できました。『東洋英和をこう変えたい、こう良くしたい』という気概のある人は、ぜひ生徒会役員に立候補してください。皆でより良い東洋英和をつくっていきましょう!」(町島先生)

140年のあゆみ

1934~1943
創立50周年

創立50周年記念行事を挙行。北原白秋作詞、山田耕筰作曲による校歌を制定。野尻湖畔宮沢に野外教育施設を新築。国粹主義と排外的風潮が高まり、校名を東洋永和女学校とする。



東洋英和女学校創立五十周年記念式典
1934(昭和9)年11月6日



東洋英和女学校
校歌表紙
1934(昭和9)年



東洋永和女学校と改称
1941(昭和16)年

元麻布一丁目仮校舎移転へ向けて

教育環境の移行にともなう困難や課題を少しずつ乗り越え、多様な学びや交流が期待される仮校舎への期待が膨らんでいます。



小学部長
吉田 太郎



前東洋英和幼稚園長
堤 加壽美

六本木の再開発に伴う移転

2025年度を目途に、小学部と東洋英和幼稚園は元麻布一丁目に建設される仮校舎へ移転することになりました。かねてから計画されてきました「六本木五丁目西地区市街地再開発事業」へ東洋英和女学院として参画することとなり、これまで長期間にわたって検討が続けられてきました。現在、都市計画が決定し、再開発組合の設立を待つ段階となっています。

都市計画では、昨年、竣工し話題となりました麻布台ヒルズのような超高層の商業ビルやレジデンスが建設されることになり、小学部・東洋英和幼稚園は児童と園児の安全や教育環境を最優先するため、騒音や振動が懸念される大規模工事の数年間を仮校舎で過ごす、という決断をいたしました。幸いなことに、仮校舎と

いっても、現校舎の機能を可能な限り踏襲した建物となるように、一から新築で建築していただくことになっています。

小学部は地下1階、地上3階建ての校舎、幼稚園は現在の園舎と同様に園庭での遊びを大切にできる保育ができるよう設計されています。仙台坂の通りに面した小学部、麻布氷川神社に隣接する幼稚園園舎は、高低差のある変形した敷地に建設されています。人工芝の小学部校庭を間に挟み、両方の建物間の距離があることも利用し、幼稚園の子どもたちには園庭と小学部の校庭も広く使って駆け回って遊んでいただけたらと願っています。また、通学時の安全のため、仙台坂沿いの狭い歩道を、小学部敷地前を道路幅と同じ6mに拡幅するなど港区との協議も進んでいます。



手前が小学部校舎、奥が幼稚園舎



幼稚園・外観

140年のあゆみ

1944～1954

東洋永和から東洋英和へ

生徒の軍需工場の勤労作業が始まり、学校内に沖電気東洋永和作業所が開設された。財政難のため、野尻湖畔宮沢の土地・施設を売却。戦後、東洋英和女学院と校名を改め、新学制実施により幼稚園、小学部、中学部、高等部、保育専攻部となる。後に保育専攻部は短期大学保育科となり、短期大学英文科も増設。小学部新校舎献堂。



高等女学校校長、短期大学学長、院長等も務めた
長野 彌



戦時中の
もんぺ姿の生徒たち
1945(昭和20)年



沖電気東洋永和
作業所となる
1945(昭和20)年

学院が一体となる新校舎

さて、立派な建物が与えられましても、実際の教育活動をこれまでの質を保ちながら継続していくためにはさまざまな課題が残されています。小学部では、麻布十番や広尾駅、ちいバスなどの通学ルートをどのように決めていくか、校庭の面積が今よりも狭くなるため運動会はどのように行っていくか、校舎と校庭が離れているため、子どもたちの遊びを担保するためには休み時間を変更する必要があるか、上履きと外履き、体育館シューズ、通学靴をどうするか、近隣にお住まいの方に騒音などをご迷惑をおかけしないだろうか、中上部と離れるため、クラブ活動はどのようにするか、そして、泰山木をはじめ、子どもたちのお気に入りの木々をどのように残していくか、などなど……。この原稿を書いている2月末の段階では、まだクリアできていない宿題がいくつか残されています。

とはいえ、仮校舎でも、これまでと同様のプログラムが継続できるよう、たとえばピアノ科は講師の先生方に元麻布に来ていただいて実施できること、体育館が1階に

建てられたので、移動が楽になりそうなこと、近隣の大使館やインターナショナルスクールとの交流が期待できそうなこと、講堂のオルガンは移設して、引き続き毎朝の礼拝で奏でられること、食堂も明るく広々としたスペースが確保されており、給食も変わらず提供できること。幼稚園は日当たりの良い立地で、登園する子どもたちをお迎えするエントランスを入ると木々の緑が迎える空間になりそうだということ。全学年が同じ園庭で過ごすことになるので、異学年交流が盛んになりそうなこと。などなど、少しずつ課題もクリアされ、新しい校舎への期待も膨らんでいます。

仮校舎での4年間あるいは5年間を経て、2028年～2030年(予定)には幼小一体となった本校舎が完成します。場所は中上部のお向かい。国際文化会館のお隣にくる予定です。新しく生まれ変わった六本木の街に、幼稚園から小学部、中学部、高等部、大学院が一体となった東洋英和の新しいキャンパスが誕生することになるでしょう。

(吉田 太郎)

NEW

仮校舎



小学部・講堂

NEW

仮園舎



幼稚園・保育室

140年のあゆみ

1955～1963

新しい学び舎

野尻湖畔桐久保にキャンプ用地購入開始。軽井沢追分に土地購入、追分寮落成。東洋英和幼稚園園舎落成、短期大学校舎落成、中学部校舎落成。



短期大学校舎落成
1959(昭和34年)年5月



軽井沢追分寮落成
1959(昭和34)年7月



東洋英和幼稚園園舎落成
1962(昭和37)年2月

小学部



図書室

- ・たくさんの本と、窓からさす光に囲まれて、素敵な気持ちになった。
- ・一人でいられる落ち着いた空間が好きだった。
- ・本を読んだり、小説をつくったりして、楽しかった。



校庭と鉄棒

- ・全学年が自由に思いっきり走り回って遊べた。
- ・鬼ごっこ、かくれんぼ、ドッジボール、真ん中でバレーボール。
- ・鉄棒は、友だちといつもがんばって練習して、できるようになったときに心から喜べた場所。



テラス

- ・校庭で遊ぶ楽しそうなみんなを見ていると、自分も元気になった。反対をむけば、教室には大好きなクラスの人々が見えた。
- ・校庭を見渡して、他学年と出会える場所。



たいさんぼく泰山木

- ・何かがあると、登って過ごした。たいさんぼく(泰山木)さんはわたしを優しく乗せてくれた。
- ・お花もきれいで、吹き抜ける風が気持ちよかった。夏は葉の陰でひと休み。
- ・お友だちと一緒に話をした思い出がたまっている。



教室

- ・みんながいて、安心できた。
- ・お友だちとおしゃべりするのが毎日の楽しみ。悩みもすぐに吹き飛んだ。
- ・クラスみんながエールをくれる。みんなと一緒にいると、元気が出た。



食堂

- ・全学年そろっておいしい給食をいただき、思わず笑みがこぼれた。
- ・お姉さんとお話しながら、楽しい給食の時間を過ごした。



仮校(園)舎への移転を前に
子どもたちや卒業生に

「思い出



図工室

- ・元気に楽しくなれた場所。
- ・みんなでいろいろなものを工作したり、思い出の絵をかいたりして、楽しかった。
- ・図工室のおいをかぐと、とても落ち着いた。



体育館

- ・広くていろいろなスポーツができた。
- ・外ではできない、バスケットボールやバドミントンを楽しめた。
- ・運動をすると、元気になる、楽しかった。

140年のあゆみ

1964~1973 かえで幼稚園開設

創立80周年記念行事を挙げる。野尻キャンプサイト落成、小学部が夏用校内服採用、かえで幼稚園開設。



野尻キャンプサイト落成
1970(昭和45)年



短期大学付属かえで幼稚園開設
1973(昭和48)年

東洋英和
幼稚園

表庭



- ・はだして庭を駆け回ったこと。泥風呂ごっこが楽しかった。
- ・石の滑り台が好きで、よく滑っていた。砂場のパンツが破れてしまうこともあった。
- ・ごぎを敷いて、友だちと色水のジュースをよく作っていた。

大工室



- ・自分で想像したものが形になっていくのが楽しかった。
- ・自由に釘打ちをしたり、電動のこぎりを使えるのが面白かった。
- ・作った作品は今でも家に飾っていて、宝物にしている。



楽器
コーナー

- ・いろいろな楽器が演奏できる場所だった。
- ・音を鳴らして、友だちが褒めてくれたり、友だちの演奏を聴いたり、温かいものがあふれる場所だった。
- ・家にはない、木琴の音を奏でるのが楽しかった。



裏庭

- ・砂場で泥だらけになった体を友だちとみんなできっつけあったこと。
- ・ヒューム管の中は少し暗くて秘密の場所だった。
- ・木と木に紐を張り、その上を歩いて忍者ごっこをするのが好きだった。

の場所」

をたずねてみました。



ままごと
部屋

- ・本物の茶碗を使ってままごとをするのが夢で、それが叶う場所だから。
- ・昔の電話があって、くるくる回すのが楽しかった。
- ・久しぶりに行ってみると、懐かしい香りがした。

140年のあゆみ

1974～1983

旧宣教師館ほか閉館、横浜校地購入

旧 東鳥居坂町2番地の青楓寮(寄宿舎)・法人本部(旧宣教師館)・東光会館(旧幼稚園／伝道館)を閉館、敷地売却。横浜市緑区三保町に土地を購入。高等部校舎落成。



旧宣教師館ほか閉館式
1980(昭和55)年7月



高等部校舎落成
1983(昭和58)年7月



大学の未来展望

— 開学35周年の「その先」を見据えて —

多様性が重視される時代の中で女子大学の役割を見出し、総合力を身に付けた次世代を担う女性を世に送り続けます。

■ 育まれる自立心とリーダーシップ

高等教育を取り巻く環境が想定を超える速さで変化している中で、「女子大離れ」が時々話題に上がります。多様性が重視されるこの時代において、女子大学は時代の役割を終えた、といった論調には賛同できません。学びの中身、諸々の学生支援において少人数で教職員との距離が近く、学生一人ひとりを親身にケアしている本学のような女子高等教育機関の良さは、その社会的価値や意義は高まりこそすれ薄まることはありません。昨年度、本学は学校教育法に基づき公益財団法人大学基準協会による認証評価を受審し、評価結果において「学生支援」では最高位の「S」評価を得ています。女子学生同士で切磋琢磨する教育環境下で、学生は自立心が育まれリーダーシップが身に付きます。卒業後、社会に出てさまざまな分野で臆することなく活躍できるような人材になり、ひいては性差による役割分担のないジェンダー平等を実現する原動力にもなると考えています。

本学は、学生がそれまでの人生で培ってきた「当たり前」を問い直し、学びを充実させるカリキュラムと、それを強力にサポートする教職員と自然豊かな学び舎が存在します。社会環境やニーズの変化の中で、多様化やジェンダーはもちろん、ITや生成AI、数理・データ情報の教育も積極的に取り入れています。

■ 「敬神奉仕」が導く社会的役割の自覚

何より、本学は「敬神奉仕」を建学の精神とするキリスト教主義による一貫教育の人間形成の最終段階に位置する高等教育機関であることを忘れてはならないと思います。学生たちは本学で、神が与え給うた賜物が何であるかを知り、それを真つすぐに伸ばすための助けを受け、「引き出し」を増やすことによって自己肯定感を高めていくことができます。本学での学びで培った温かい手で、小さき者を導き、弱き者に寄り添い、周縁の人々と手を取り合い、平和を構築する助けをすること、それがミス・ハミルトンが述べられた「真の意味でのキリスト者精神を社会に拡散する」行いでもあります。神がこの大学に望んでおられるのは、「誰かのために、まず私から始めましょう」の「英和スピリッツ」を社会に広げていくことだと信じています。

今年、学院創立140周年、大学開学35周年を迎えた本学は、既に「その先」を見据えた教学改革に取り組んでいるところです。神から委ねられたミッションを一人ひとりが自覚し、また神から遣わされていることに感謝して、喜んで神と人のために奉仕する。その精神を育て、総合力を身に付けた次世代を担う女性を世に送り続ける女子高等教育機関という使命をこれからも果たしてまいります。

140年のあゆみ

1984～1993

創立100周年 大学と大学院開設

創立100周年記念行事を挙げる。1986年に短期大学が六本木校地から横浜校地へ移転、1989年に東洋英和女学院大学開学、1993年に六本木校地に大学院開設。



短期大学横浜移転
1986(昭和61)年4月



大学開学
1989(平成元)年4月

 INTERVIEW

心理カウンセラーとして 他者のために心を尽くしたい



浅見 真梨さん
人間科学部 人間科学科
(2017年3月卒業)

音大への進学を目指していましたが、敬神奉仕を体験できるのは心理の道だと考え進路変更しました。心理学には幅広い領域がありますが、大学では、主に対話を通じて心の問題を解決に導く臨床心理について研究しました。臨床心理士になるまでの道のりは長いですが、現役の精神科医でもあるゼミの教授が相談者のために心を尽くす姿を見て、改めて自分の進む道を再確認できたように思います。現在はスクールカウンセラーとして、生徒と保護者のカウンセリングや教員へのコンサルテーションを担当すると共に、校外で一般の方のカウンセリングや電話相談業務も行っています。相談者の多様な悩みに対応できるのは、幅広い学問を学べる東洋英和女学院大学のリベラルアーツのお陰であり、敬神奉仕の「隣人を自分のように愛しなさい」という教えが仕事をする上での軸になっています。これからも相談者の悩みに寄り添っていきたくです。

PROFILE

小学部より東洋英和で学び、2013年高等部卒業。東洋英和女学院大学卒業後、東洋英和女学院大学大学院 人間科学研究科 人間科学専攻 臨床心理学領域修士課程修了。現在、中高一貫の女子高でスクールカウンセラーを務める。

互いを認め合う保育の実践で 誰もが生きやすい社会に



溝口 晴野さん
人間科学部 人間科学科
保育子ども専攻
(2011年3月卒業)

私が勤める園では、子どもたちの多様な個性を尊重し支え合うインクルーシブ教育を行っています。互いの違いをどう認め受け入れるか……簡単に答えは出ませんが、問いかけを通して子ども自身に考えてもらうようにしています。東洋英和女学院大学にも、各々の個性を尊重する土壌がありました。相手を思いやり、困っている人に手を差し伸べるのが当たり前と思えるのは、敬神奉仕の精神が自分のなかに根付いているからだと思います。また印象的だったのは、ある日本人夫妻が運営するケニアのスラム街にある幼稚園を訪問した経験です。子どもたちが置かれる過酷な状況にショックを受けましたが、安心できる場所では皆が輝き、愛されていると実感できれば他者のことも愛せるようになると実感しました。誰もが安心して子育てできる社会を目指して、保護者や地域の方と手を携え、子どもたち一人ひとりと向き合っていこうと思います。

PROFILE

捜真女学校 中学部・高等学部を卒業。東洋英和女学院大学卒業後、障がいを持つ子どもと共に学ぶ、学校法人渡辺学園 港北幼稚園に入職。2020年より主任として、子どもたちの保育だけでなく、保護者のケアや職員のマネジメントなどを担当。

140年のあゆみ

1994～2003

高等部、小学部に新校舎

高等部新校舎および新マーガレット・クレイグ記念講堂落成。軽井沢追分寮改築。小学部新校舎落成。

高等部新校舎および新マーガレット・クレイグ記念講堂落成
1996(平成8)年



小学部新校舎落成
2000(平成12)年10月



「東洋英和のキリスト教保育」を、 神さまを見上げ、幼な子とともに、 また多くの方々とともに紡いでいけますように……

困難や課題もある中、祈りながらキリスト教保育を実践し、
敬神奉仕の理念を継承し、「信頼」「希望」「平和」を紡ぐ歩みを続けたいと思います。

東洋英和女学院の創設の主である神さまを賛美します。そして1973年に創立したかえで幼稚園の50年の日々をお支えくださった多くのみなさまに、感謝します。

かえで幼稚園の創立50周年の年であった2023年度、私は記念の礼拝を重ねる度に、カナダからの宣教師の先生方と元院長の長野彌先生の祈りと願いの中に、また当時の短期大学の先生方のビジョンとして、付属幼稚園設立への思いがあったこと、そしてそのことが学院と短期大学の計画となり、実現されたことをあらためて心にとめておりました。

かえで幼稚園の保育は、東洋英和が継承してきたキリスト教保育を土台として積み重ねられ、次の代から次の代へとつながられてきました。大事に引き継がれてきた物事が多くありますし、時代とともに形が変えられたり消えていったものもあります。その中で、「礼拝をすること」と「喜んでじっくりとしっかりと遊ぶこと」「ともに生きること」は、いつの時代もそして今も保育の根幹となって継承されています。

さて、少子化をはじめとする子どもをめぐる背景により、保育の場には厳しく難しい状況もあり、課題はいっぱいです。現在私たちは、かえで幼稚園のようなキリスト教保育を求める方を広く受けとめられる器となり、この時代の子どもの育ちと保護者の子育てを支援できるよう、保育の体制の必要な変革を法人と大学に支えられながら少しずつしているプロセスの中です。折しも2023年には、学院の140周年を迎えるにあたり、学院のビジョン策

定会が開かれていました。私は、各部の先生方と語り合うごとに、かえで幼稚園の変えていくべきものを探り考え、受け止めていました。その上でなお変えずに守り続けるべきものも明確になっています。

保育の形や体制は時代に沿っての必要な変革をしていくとともに、イエスさまを中心にしてのキリスト教保育の場として、子どもの子どもの時を守り、礼拝と豊かな遊びと人と人とのつながりを大切に守り続けていきたいと思っています。また、これまで同様に、大学との連携のもとに、保育を研究し学び合うことと、保育者をめざす学生の教育実習の場としての役割を果たしていきたいと思っています。

もう一方、この50年の間に培われたこの地域の方々との関係をなお大事にし、ここの場がキリスト教の精神とキリスト教文化の場として開かれていき、支えあい・喜びを分かち合い・祈り合っの子どもを育み合うコミュニティとなるよう努めたいと願っています。その上でも、50周年を機に始めることのできた地域礼拝「美しが丘礼拝」と、同窓生たちにより立ち上げられた「かえで美しが丘の会」は大きな力となっていくと信じ、感謝しています。

学院の創立140周年を迎え、学院の中のひとつの枝であるかえで幼稚園が、主から与えられた「敬神奉仕」の理念のもとに、神さまを見上げ、多くの方がたつながら、「信頼」と「希望」と「平和」を紡ぐ場として、歩みを続けさせていただきたいと望んでいます。これからも、お祈りとお導きをどうぞよろしくお願いいたします。

140年のあゆみ

2004～2023

学院資料展示コーナー開設、東洋英和楓の会発足、桜プロジェクト

卒業生だけではなく、卒業生の保護者や東洋英和に関わった方々全てを会員とする「東洋英和楓の会」が発足。東洋英和女学院本部・大学院棟に学院資料展示コーナーを開設。宣教師の先生方のお働きを覚え、カナダに桜の苗木を贈る桜プロジェクトが発足。2014年には苗木が、ミス・カートメルゆかりの地オンタリオ州ハミルトン市とソロルド市に植樹された。



東洋英和楓の会チャリティコンサート開催
2015(平成27)年11月



創立140周年記念事業

2024年11月、東洋英和女学院は創立140周年を迎えます。宣教師ミス・カートメルによってたった2人の生徒から始まった学校は、すでに4万人以上の卒業生を送り出しています。その間、多くの方々のお祈りとお支えによって、「敬神奉仕」の学院標語のもと、恵みに満ちた学校生活を送ってまいりました。140周年を記念してさまざまな事業を計画、実施しておりますので、ご報告いたします。これからも引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

創立140周年記念募金

東洋英和の教育活動は多くの方々により支えられています。新しい時代を担う人物の育成のためには、時代に即した教育やさまざまな変化に応じた環境や備品を整える必要があります。学院の教育活動は学納金による収入の部分が大いのですが、篤志による寄付金も大きな支えになっています。今年140周年を期に、未来に向けて東洋英和の教育をさらによいものにしたいと考えております。広く140周年記念募金を呼びかけます。募金はすべて園児、児童、生徒、学生の教育のために使います。3,000円以上ご支援くださった方には、『東洋英和女学院 140年史』とピンバッジを贈呈します。皆さまとともに140周年をお祝いしたいと思います。

目標金額 2,500万円

[期間] 2024年4月1日～2025年3月31日

[用途]

大学: アップライトピアノ、電子ピアノの買い換え

中高部: 野尻キャンプサイトのキャビンにエアコンを設置、正門前にシンボルツリーを植樹

小学部: 北欧製屋外遊具の設置

幼稚園: 礼拝のための講演台を設置、大型組み木セットの購入

かえで幼稚園: 大型箱積み木セット・大型組み木セットの購入、園庭のジャングルジムの交換、園庭の木製大型遊具かえでタワーの建て直し

◆『東洋英和女学院140年史』

『東洋英和のれきし』(子ども向け年史)

各部代表の委員による「140年史編纂委員会」のもと、20年ぶりの年史となる『東洋英和女学院140年史』を刊行します。さらに、山本香織前小学部長の文・イラストによる子ども向け年史『東洋英和のれきし』も刊行し、学院の歴史を振り返り、これからの東洋英和を展望します。

◆創立140周年記念式典

在校生・教職員等が集い、これまで学院をお導きくださった神様に感謝し、歴史を紡いだ先達に思いを寄せます。

◆楓アプリ(東洋英和女学院公式アプリ)

アプリをダウンロードして「楓園」のデジタル版、学院のニュース、ショッピングなどをお楽しみください。なお、東光会会員の方はマイページから住所変更、証明書の請求、お手伝いの応募が可能です。

プッシュ通知で最新情報をお届けします



◆楓の会主催講演会

(22ページ参照)



© 2024 SANRIO CO., LTD.
APPROVAL No. P1604122

◆校歌90周年ビデオ

◆卒業生キャリア紹介サイト

一輝く英和の卒業生一



◆『東洋英和女学院

はみ出し140年誌』

「英和と私」「思い出」「好きな聖句」などをテーマに綴ったエッセイ等をまとめた年誌を作成します。また、東洋英和独特の言葉を「あるある英和事典」という形で収録するコーナーもあります。

ふるってご投稿ください。

完成後は、デジタルブックや新聞として公開予定です。

【募集要項】※在校生は各部の募集要項を参照

■対象: 在校生、在校生の家族、卒業生、楓の会会員、教職員、旧教職員

■募集テーマ: 「英和と私」「思い出」「好きな聖句」など

■表現の形式: エッセイ(800～1600文字)、詩、短歌、俳句など

■締切: 2024年9月30日(月)

■募集要項の詳細はこちら▶▶▶▶▶

■投稿先:



▶エッセイ等はこちらへ

E-mail: hamidashi140@toyoeiwa.ac.jp

▶あるある英和事典はこちらから

言葉と定義を入力。

https://forms.gle/4pGugw72EQYbPMGr6

【例】幼稚園: ままごと部屋

小学部: ホステス 中高部: パンおじ

大学: キッチンカー



ミス・カートメルの信仰と教育

大学 国際社会学部 国際社会学科 講師 堀川 敏寛



学院創設者
マーサ J. カートメル

創立140周年を迎える東洋英和女学院。今回は、140年前に神様の語りかけに応じて来日し、学院を創設したミス・カートメルの信仰と教育について、さらにその延長線上にある今のキリスト教教育についてご紹介します。

神様の声に導かれて

本学院の創設者マーサ J. カートメルは、36歳のとき、日本で伝道するという新たな使命を迷いなく受諾します。すでに務めていた校長職を辞し、なんと3ヶ月後には日本行きの船に乗って、横浜へむかっていたのです。ミス・カートメルは、このようにカナダでの職を手放して、異国の地へと向かったのですが、その彼女を駆り立てたものは何だったのでしょうか。実は、ミス・カートメルは、何年も前から祈りのなかで、神様の声を聞いていました。彼女はその声を自身の胸に秘め、来るべき時を待っていたのです。その声とは、どのようなものだったのでしょうか。彼女は声にたいして「主よ、私をお用いくださるのなら、どうぞ私をお遣わしてください」と応え、祈り続けていたことを、友人への手紙で告白しております。



[大学の授業]「キリスト教概論II」の様子

もっとも大切な言葉

キリスト者として生きていく上でもっとも大切にすべき福音とは、いったい何なのでしょう、少し自問自答したいと思います。もちろん主なるイエスが語られるすべての言葉が、私たちにとって大切でしょう。ただそのなかでも、とくに重要なメッセージは何だったのでしょうか。それはガリラヤ湖畔で語られた多くのたとえ話でしょうか、丘の斜面で話された山上の垂訓でしょうか、もしくは最後の晩餐で伝えられた新しい掟、互いに愛しあうことでしょうか。わたくしは、イエスご自身が「最後に語られた言葉」、それが最も大切なのではないかと考えます。

イエスは十字架の後、3日目によみがえられます。マグダラのマリアをはじめとして、弟子(使徒)にたいして、生の肉体として現れます。そこで復活したイエスは、最後のメッセージを伝えているのです。それは4つの福音書に共通するもので、例えばマタイによる福音書では、イエスは11人の弟子たちにこのように言っています。「だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい」(28章19～20節)。イエスが、復活して伝えなかったこと、それは福音が世界的に広がっていくことと、洗礼を授けキリスト者が世界市民になることです。

実はカナダ・メソジスト教会婦人伝道会社(通称:カナダ婦人ミッション)の宣教師たちは、「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」(マルコによる福音書16:15)というイエスの遺戒を受けとめ、自らの使命に専心してきました。イエスは、人間に限らず神が造られたあらゆるものにたいして福音を伝えるよう話したのち、天に上げられました。これこそ福音書のラストシーンを飾るまさに締めめの聖句なのです。

ここで冒頭で述べたミス・カートメルの話に戻りたいと思います。復活したイエスが最後に語り掛けたメッセージは、福音の宣教を目的として弟子たちを遣わすことにあるので、それはミス・カートメル自身にも届いていた声でした。すなわち彼女は、同じメッセージを含んだ声を直接聞いており、自らを日本への出航に駆り立て、自らの人生を東洋英和女学院の設立・運営・教育に捧げたのです。さすればミス・カートメルが持っていた強い意思を支えていたもの、それはこのような信仰心でした。彼女は祈りのなかで、語りかけられていた声をもと

に、福音を世界に伝えるという宣教師の使命を果たすのですが、それはイエス自身が直に伝える「もっとも大切な最後のメッセージ」なのです。

信仰と教育

このようなミス・カートメル信仰は、彼女が人生を懸けた日本の女子教育と密接に関わっています。彼女は自宅である宣教師館の書斎を使い、バイブルクラスを始めます。そこには西洋文明を吸収したいと願う青年たちに英語と聖書の指導が行われました。彼女の人格を慕って参加者は増加し、青年の大部分が受洗したようです。これは信仰と教育が結びついた第1の成果です。

次に、ミス・カートメルは日本で伝道活動を続けるなか、学校教育を受けられていない日本の少女たちのことを知ります。そこから彼女は、自らの使命をキリストの福音に基づく女子教育を行うこと、と考えるようになりました。そこで本学院の設立が考案されるのですが、そこには生徒だけではなくその父母にもキリスト教と接する道が開かれる、という彼女の確信があったのです。

このように女学校設立にたいするミス・カートメルの教育観は、伝道のための教育でした。つまり学校教育には、その先にある伝道というイエスご自身が示された究極の目標があったのです。信仰と教育とを充実させた第2の成果です。ちなみにミス・カートメルにとって、日本の少女たちが身につける学問や教養への道は、神の



[大学の授業]日本の自然に宿る神々について発表する学生



[大学の授業]礼拝堂での学びのひとつ

恵みの愛への信仰、神を前にした人格の尊厳と平等という基礎の上に成り立つものです。したがって信仰と教育という両輪の片方が決して欠けぬよう、彼女は生涯にわたって尽力していたことと想像いたします。

「いま」のキリスト教教育

現在大学では、1年生と2年生の必修科目である「キリスト教概論I・II」のみならず、3年生以降は「聖書学」、「キリスト教思想史」、「キリスト教と平和」などの選択科目をとおして、学びを深めています。今の教育は、紹介しました宣教師による教育の延長線上にあるものの、それがもはや伝道的手段として用いられることはなくなりました。むしろ大学では主イエスの福音を理解するのみならず、現代世界を生きる上で神の働きへの気づき、日常世界で必要となる他者への配慮や平等思想といった倫理をキリスト教教育をとおして学んでおります。また少人数制のゼミでは左の写真のように、日本の自然に宿る神々について調査し発表する学生もおり、エキュメニカルな(宗教的多様性を大切に)宗教教育が展開されております。わたくし担当教員が教育上大切にしている点は、キリスト教の公共性です。キリスト教が発するメッセージは、決して信者に限定されるものではありません。あらゆる時代に、あらゆる世界で妥当する普遍的な言説を含んでいる点を伝えられるよう、大学教育のなかで常に意識しております。

学び舎の「むかし」と「いま」

むかし



(左)学院創立初期の校舎

いま



(右)現在の中高部校舎。生徒は、校舎前に並びきれないほどに増えました

むかし



(左)当時のバイブルクラスの様子

いま



(右)屋外での授業。学内のさまざまな場所で学びます

教員紹介

ささいな日常にある学びの「もと」



Megumi Noda

大学

人間科学部 人間科学科

野田 潤 准教授

東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得満期退学。修士(学術)。2020年4月に着任。社会学、家族社会学、ジェンダー論に関する授業を担当。趣味は読書、音楽鑑賞、音楽演奏(チベット民謡と南米フォルクローレ中心)、史跡めぐり、近所の鴨ウォッチング等。



私物のダムニエン(チベットの伝統的な弦楽器)とチャランゴ(南米・アンデス地方の伝統的な弦楽器)

学生からのメッセージ



人間科学部人間科学科4年
(左)井澤 真祐さん
(中央)伴野 小春さん
(右)村本 裕希夏さん

野田ゼミでは社会学を中心に、自分の「気になる」が追及できます。一人で考えるだけでなく、ゼミ生皆と多角的な視点から意見を出し合って進めるため、自然に議論のスキルが上がっていきます。先生はそれに対しフィードバックやアドバイスを丁寧にしていただけます。どんなことでも親身になって相談に乗ってくれるとても優しい先生です。

—専門とされている家族社会学を学ぶきっかけは？

大学入学時はチベット研究をしたいと思っていました。ところが、教養課程でジェンダーに関する授業を受け、それまで私が「もやっ」としていたことが学問になっていたのかと衝撃を受けました。迷った末に、その先生のいる学科で学ぼうと決めました。その先生が、家族社会学もやっていたのです。ジェンダーと家族の問題はどちらも不可分で、そこから私の研究が始まりました。

—どんなことが気になっていたのですか？

日常のささいな違和感です。たとえば、私の名前「潤」と書いて「めぐみ」。進級の度に「女の子だったんだ」と言われ、相手の態度が変わります。私はこの両性の要素をもった名前が好きですが、「(男と間違われて)かわいそう」という人もいます。家族についても、家庭科の教科書に載っていた人生設計が大学卒業→就職→結婚→出産→子どもが成人→一年→老後は夫婦で穏やかに過ごす、と一例のみ。「クラスの何人がこの通りの人生を歩めるの？」と納得いかない気持ちがくすぶっていました。

—家族社会学ではどんな研究をしていますか？

家族の親密性や理想像の変化などを研究しています。たとえば、社会が家族愛を重視するのは近代以降のこと。愛情にはよい面もありますが、それだけに頼ると見逃される問題も出てきます。たとえば、介護や育児を家族だけで行くと、疲弊し虐待につながることも。世間は虐待した人を非難するだけで、社会制度の不具合は不可視化されがちです。愛があれば、誰でも介護や育児ができるという考え方は健全ではありません。こうした社会問題を凝縮したものが、近年の家族の中では非常にしばしば観察されます。

—家族社会学を通じて学生に何を伝えたいですか？

家族ケアの陥りやすい罠について話すことで、愛情を過信せず、公的支援など他者の助けを借りることが必要だと伝えています。自分でケアをしたくてそれができる環境にある人はともかく、「愛があれば家族だけで全部できるはず」と他人にも求めるのは間違いです。授業でも「愛情至上主義は、社会問題を“見えない化”させる」と話しています。

—英和生にメッセージをお願いします。

アンテナを張って、日常の気づきや違和感を大事にしてほしいと思います。なぜなら、学問は日常とつながっているからです。何歳であっても、私たちの足元にあるキラキラした砂の一粒一粒が学びの「もと」となります。

世界の人と仲良くなれる英語の力



Kyoko Machida

小学部

英語科専任

町田 協子 教諭

小学部より東洋英和女学院に入り、高等部卒業。上智大学在学中にアメリカへ留学。玉川大学通信教育課程にて小学校教諭免許状を取得。日本基督教団本郷中央教会教会員。梨花(Ewha)女子大学附属初等学校との交流を機に韓国語の勉強に挑戦中。異文化理解にも役立っている。



韓国語の勉強に使用しているテキストの一部

児童からのメッセージ



小学部3年
(左)仙波 凜花さん
(右)坂本 彩羽さん

授業では、英語を歌って覚えたり、ゲームをしたりして、楽しくわかりやすいです。(仙波凜花さん)
先生は優しく、みんながわからない時は、ていねいに教えてください、わかりやすくヒントをくださったりします。(坂本彩羽さん)

—小学部で印象に残っている思い出は？

休み時間になると校庭へ飛び出し、友だちと走り回るような活発な子どもでした。図書室で本を借りることも好きでしたが、校庭で体を動かすことが好きでした。なかでも印象に残っているのは、6年生のときの運動会でリレーのアンカーになったことです。学年いち足が速い同級生と競り合いになり、無我夢中で走って同着の1位となったのですが、2人とも白組だったので、一緒に優勝トロフィーを受け取り、誇らしく行進したことを覚えています。小学部の英語の授業では、絵本の文章を書き写す課題が好きで印象に残っています。

—先生が英語の教師を目指したきっかけを教えてください

大学時代にアメリカに留学して、現地の小学校で教師のアシスタントを経験する機会があり、子どもたちの成長を感じられることが楽しいと実感したことがきっかけです。また、私自身も外国語として英語を学習したので、もし英語に苦手意識を持つ子がいたら、気持ちに寄り添いながら教えられたいと思ったのも教師を目指した動機の一つです。

—小学部の英語教諭として、どんなことに喜びを感じますか？

日々の授業で子どもたちと触れ合い、6年間という長い時間をかけて成長を見守れることに喜びを感じます。子どもたちのふとしたつぶやきや反応から、私自身も日々多くのことを学ばせてもらっています。英語も、母語と同じように、言葉のシャワーを浴びることで自然な発話につながると考えています。いつ発話をするかには個人差がありますが、子どもたちが自信をもって英語を発することができるようになることも大きな喜びです。

—英語や国際交流を通して、子どもたちに何を伝えたいですか？

2001年から続くのが、韓国の梨花(Ewha)女子大学附属初等学校との交流です。私がEwhaの先生に送った一通の手紙をきっかけに、その後、小学部6年生のペンパル・プロジェクトが発足し、5年生の希望者が互いの学校を訪問するようになり、2014年に姉妹校提携を締結するに至りました。子どもたちには、英語の勉強だけでなく、異文化理解や友情の大切さを学んでほしいと思っています。異なる言語や文化を理解することは世界平和への一助となり、自分の視野を広げることにもつながります。小学部では「敬神奉仕」を低学年にも分かりやすく「神さまのために 人のために」と言いかえています。英語科でも同様に「for God and for people」と英語室に掲げています。神さまと人のためにいろいろなことができる人になってほしいです。

楓の会の歩みとこれから

先人たちの神への信仰と隣人愛の精神を受け継ぎ教育環境の一層の充実に向け邁進します。

東洋英和女学院に連なる保護者、同窓生とご家族、学院関係者の皆様、いつも学院をお支えくださり、誠にありがとうございます。

本年、学院は創立140周年を迎えますが、創立150周年までの今後の10年間は、学院の将来を見据えるとても大切な時期となります。今年8月に設立15周年を迎える「東洋英和楓の会」に関しましても、設立の経緯を今一度振り返り、会の在り方を皆様と共有したいと思います。

2008(平成20)年1月、当時の池田守男理事長・院長より、同窓会、後援会など学院のさまざまな組織をつなぐかたちで、学院関係者のほか卒業生やその親族、さらに実業界にも呼びかけを行って広く会員を募り、物心両面から東洋英和を支えていく団体を立ち上げてはどうか、との提案がなされました。その後団体の設立に向けた検討が進められ、2008年4月には、団体の正式名称を「東洋英和楓の会」とすることが決定し、2009(平成21)年8月29日に中高部新マーガレット・クレイグ記念講堂において、設立式が挙行されました。

東洋英和楓の会は、学院の教育充実にめざし、東洋英和にかかわりのある方々からの賛助金、寄付金を呼びかけるとともに、会員相互の交流・共励と教養・芸術・文化活動の情報を分かち合う活動を行うことが目的とされました。具体的には、学院広報誌「楓園」の会

東洋英和女学院 理事長・院長
東洋英和楓の会 会長
増淵 稔



員への定期配布や、教育講演、芸術公演の実施、学院発展のための行事や事業への協賛などの活動を行い、現在に至っています。

2011(平成23)年2月から、2018(平成30)年1月まで、楓の会会報誌として「KAEDE MAGAZINE」が年2回のペースで刊行され、各界で活躍する東洋英和女学院の卒業生やゆかりの深い人物を取り上げた対談記事、寄稿のほか、学院の歴史やエピソードを紹介する記事などを掲載しました。「KAEDE MAGAZINE」は第15号をもって刊行を終了し、学院広報誌「楓園」と統合されましたが、「KAEDE MAGAZINE」が発信していた内容は、今も「楓園」に引き継がれています。

140年前、カナダ・メソジスト教会の婦人宣教師ミス・カートメルによって設立された東洋英和女学校は、厳しい環境の中においても歴代の宣教師をはじめその教えを受けた先人たちによる篤い神への信仰と隣人愛の精神の実践により、幾多の困難を乗り越えてまいりました。現在、少子化問題をはじめとして学校を取り巻く環境は厳しい状況にありますが、このような時こそ、先人たちの「敬神奉仕」の思いが常に私たちと共にあり、私たちを励ましてくれるというを思わずにはいられません。今後とも皆様方のさらなるご支援とお力添えをいただき、東洋英和らしい高いレベルの教育活動を続けてまいります所存でございます。

東洋英和楓の会

～東洋英和女学院創立140周年記念～ 楓の会主催講演会 開催のお知らせ

創立140周年を迎えることを覚えて、講演会を開催することとなりました。

今回の講演は、株式会社サンリオエンターテイメント代表取締役社長、サンリオピューロランド館長を務めていらっしゃる小巻亜矢さんをお迎えします。

■ 第一部 講演会

「大丈夫、人生いつからでも何とでもなる」

今までたくさんの想定外の出来事に出会った時に、どのように扉を開けてきたのかをお話いただけます。



© 2024 SANRIO CO., LTD.
APPROVAL No.P1604122

■ 第二部 トークセッション

「女性のリーダーシップが拓く未来」

著しく変化している社会における女性の立場を、楓の会顧問の橋本五郎氏と論じていただきます。



小巻 亜矢氏

(株)サンリオエンターテイメント代表取締役社長、サンリオピューロランド館長
1978年高等部卒業。東京大学大学院教育学研究科修士課程修了。
1983年(株)サンリオ入社。結婚退社、出産等を経て復職。2019年より現職。子宮頸がん予防啓発活動「ハロースマイル(HelloSmile)」委員長、他多数の役職を務める。

日時：2024年11月23日(土・祝)
開演：13時30分(開場 13時00分)～15時30分(予定)
会場：東洋英和女学院中高部 新マーガレット・クレイグ記念講堂
入場料：無料
申込方法：7月1日(月)より申し込み開始
右のQRコードよりお申込みください。
問合せ先：kaedenokai@toyoeiwa.ac.jp



橋本 五郎氏

読売新聞特別編集委員、東洋英和楓の会顧問
1946年秋田県生まれ。慶應義塾大学法学部政治学科卒業。読売新聞入社後、社会部、政治部を経て論説委員、編集委員を歴任。日本テレビ系列多数の報道番組に出演。

東洋英和楓の会

Kaede People

東洋英和楓の会顧問
中村メイコ氏を偲ぶ

母・中村メイコを偲んで



メイコとカンナ

中村 メイコ氏

本名：神津五月。作家・中村正常氏の長女。1934年、東京生れ。2歳の時に映画「江戸っ子、健ちゃん」でデビュー。天才子役として注目される。1957年に作曲家・神津善行氏と結婚。長女は作家・神津カンナ、次女は女優・神津はづき、長男は画家・神津善之介。2023年12月31日、89歳にてご逝去。

母、中村メイコは小学校しか行っていない。

けれども戦争中だったこともあり、その小学校も満足に通っていない。2歳半から芝居の世界に足を踏み入れ、そのためほとんど作家だった父親の個人教授で育った。この話は長くなるので省くが、だから私、妹、弟（幼稚園まで）がお世話になった東洋英和は、母にとって唯一の「学校」だったのだと思う。忙しい中、私の幼稚園時代は母の会で芝居をしたり、参観日も、給食当番も、欠かしたことはなかった。学校を知らない母の面白い逸話には事欠かないが、これもまたの機会に譲ろう。そして幼稚園の歌まで作詞したのだから本当に、私たちきょうだいよりもずっと長く深く、東洋英和とお付き合いしていた人だったと思う。

その母が2023年12月31日に亡くなった。享年89歳だった。マスコミ公表したあと、東洋英和のさまざまな部署や私や妹の友だちからお花や弔電やお手紙が届き、



幼稚園母の会でのお芝居（メイコ氏、前列中央）

寄稿者

神津 十月（神津 カンナ）氏

中村メイコ氏の長女。幼稚園から高等部まで東洋英和。1977年高等部卒業後、米国サラ・ローレンス・カレッジで演劇を学ぶ。帰国後に発表した『親離れするとき読む本』は、体験的家族論としてベストセラーとなる。以後執筆活動の他、テレビ、ラジオ、公的機関や民間団体の審議委員など、さまざまな分野で精力的に活動している。



それらを見ながらしみじみ母と東洋英和の長いお付き合いを感じた。

私は父方の伯母二人が英和ということもあって、アメリカに留学したとき、その伯母の友人という方が「東洋英和アメリカ東海岸会」をやっているから何でも困ったことがあったら言ってね……と連絡をくれたことを、ふと思い出した。東洋英和のゆるいけれど確かな、ゆりかごのようなセーフティネットのあり方を感じた瞬間だった。そのときと同じようなやさしいつながりを、母の元に届けられる花たちを見ながら思い、涙がこぼれた。65歳になって改めて感じた英和の優しさだった。

走馬灯のように、母と東洋英和の思い出が次々と脳裏によみがえる。幼稚園で「おてがみさんのみた夢」を演じたときの母、小学部の地下の給食室で給食当番のため一生懸命に牛乳瓶を拭いていた母、中学高校の頃、学園祭で演劇部の演し物を真剣に見ていた母。どれもいきいきとよみがえってくる。

自分の母校を持たなかった母にとって、東洋英和は子どもたちの出身校というだけでなく、まぎれもなく「自分の学校」だったのだと思った。あたりまえだが、学校は通っている生徒だけのものではない。出身校を持たない母にとっても、英和は母校だった。



中学部1年のクラス写真（カンナ氏、前から2列目、右から4番目）

東洋英和幼稚園の歌
「おともだち」▶





『日本での百年』が描く等身大の宣教師たち

— 学院創立140周年におすすめの一冊 —

このたび、カナダの宣教師の先生方の歴史を記録した『カナダ合同教会 日本での百年』が刊行されました。1981年に英文で発行された原書を執筆したのは、グウェン・ノルマンとハワード・ノルマン夫妻。ハワードは東洋英和の役員も務めた人物で、ハワードの父は軽井沢の避暑地開発にも関わったカナダ人宣教師ダニエル・ノルマンです。つまり、この書物は日本の事情を肌で知っている宣教師ノルマン一族の筆による、カナダ・メソジスト教会(のちカナダ合同教会)の日本伝道の百年を綴る歴史書なのです。東洋英和の宣教師の先生方もたくさん登場します。

山梨英和の中学校・高等学校の元英語教員である後藤哲夫先生が、原書のうち前半部分を翻訳し、読みやすい日本語訳での出版となりました。

500頁近くもある大著ですが、読み始めると、ある意味「人間臭い」記録に惹きつけられます。宣教師の先生方も

決して完璧だったわけではなく、たくさんの失敗や挫折を繰り返し、時には深刻な仲間同士の紛争も起こってしまいます。それでもなぜ日本のために、東洋英和のために伝道活動を続けたのか……?人間的に苦悩しつつも、いつでもタフに希望を捨てなかった、宣教師の先生方の信仰と奉仕をリアルに感じさせてくれる一冊です。

140周年を迎える今、是非ご一読いただきたいです。



グウェン・R. P. ノルマン著 後藤哲夫訳
『カナダ合同教会 日本での百年
カナダ・メソジストの歩み [明治・大正編]』
教文館 2023年12月刊行 税込価格:4,950円 500頁

●「史料室だより」No.102「特集 東洋英和の自校史教育」は、以下のURLもしくはQRコードからお読みいただけます。

<https://www.toyoeiwa.ac.jp/archives/publications/>

●史料室TEL:03-3583-3166/FAX:03-3583-3329 ホームページ <https://www.toyoeiwa.ac.jp/archives/>



後援会より

2024年度後援会総会のご案内

2024年度後援会総会を以下のとおり開催いたします。

当日は、総会、学院各部説明会に引き続き、学院各部責任者や教職員にもご参加いただく懇親会も予定しております。後援会会員の皆様におかれましては、是非ご出席くださいますようお願い申し上げます。

日程:2024年7月5日(金)
時間:18時00分~20時45分(予定)
場所:ANA インターコンチネンタルホテル東京
備考:要事前申し込み

※詳細は、後援会よりお送りのご案内をご覧ください。



2023年度後援会総会の様子

大学同窓会 楓美会より

楓美会30周年記念会のご報告

多くの学生、生徒に活躍の場を提供すること!を合言葉とし、会員の皆様や一般の方にも知っていただけるように楓美会30周年記念会を経団連会館にて開催しました。学生より演奏やSDGs活動に関するプレゼンを披露いただき、来場者からは「未来へつながる周年行事でしたね」と多くの感想をいただきました。また、寄付のご協力をいただいた皆様に心より御礼申し上げます。2024年も学生たちに活躍の場を提供してまいりますので、応援お願いいたします。

※詳細は、楓美会HPをご覧ください。



2023年11月一般社団法人楓美会30周年記念会

学院同窓会より

同窓会支部会はいくつあるか ご存知ですか?

現在、学院同窓会HPに掲載されている支部会は全部で11です。国内5支部、海外6支部が活動中で、それぞれの場所で友好の場として継続されています。新型コロナの5類移行に伴い、皆様の周囲でも学年会などの集まりが始まっていらっしゃると思います。支部会も活動を再開し、昨年は関西、湘南、ロンドン支部からご報告をいただきHPを更新しています。支部活動の新規掲載も承りますので、是非事務局宛にご連絡ください。お待ちしております!



現在HPに掲載されている関西支部の写真です